

地元就職の応援に向けた具体的な提案の取りまとめ

氏名 事務局まとめ

		ターゲット	
	高校卒業後に就職	大学等への進学後に就職	その他（離職者・移住者）
課題① きっかけづくり ～より具体的な情報提供、 キャリアの積み方や実例 ～	<p>○進路指導の先生との定期的な情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業紹介フェア等を高校で実施</li> <li>・先輩から後輩に地元就職の良さを伝える 機会の創出</li> <li>・各企業のコアな技術を紹介</li> </ul>	<p>・SNSの活用と周知（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しごとサイトの充実</li> <li>・大学等進学先への働きかけ</li> <li>・自身のキャリアが生かせる仕事ができる ことを周知</li> <li>・就職支援サイト（リクナビ等）へのPR</li> </ul> <p>○地元出身者が集う同窓会の開催</p> <p>○神戸新卒応援ハローワークの周知</p>	<p>○大阪などの駅ビルで就職フェア（ふるさと篠山フェア）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校による高卒離職者の進路相談</li> <li>・新卒枠での採用拡充</li> <li>・休日のUターン相談会の開催</li> <li>・相談先の充実</li> <li>・ハローワークへの誘導</li> </ul>
課題② 体験できる場 ～身近に感じる企業、敷居 を低く～	<p>○企業の出張授業など交流の機会創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭等での地元企業ブース出展</li> <li>・インターン（自転車通勤）への支援策</li> </ul> <p>○高校生の発表の場に企業も積極参加</p>	<p>○職場体験（インターンシップ）の充実</p> <p>○動画を活用した企業紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生向けの企業見学バスツアーの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験の依頼への積極対応</li> </ul>
課題③ 種をまくこと ～ふるさと教育を全員が 認識～	<p>○シミュレーション冊子の作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車免許の取得助成</li> <li>・小～高まで一貫したふるさと教育の提供</li> <li>・地元高校への進学率を上げる取り組み</li> <li>・小学生の企業体験（ものづくり体験等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師等修学資金貸与の介護職への対象 拡充</li> <li>・空き家、農地付きシェアハウス、カーシェアリング等の制度創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の貸出制度の創設</li> </ul> <p>○地元就職奨励金の支給枠拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「丹波篠山」ブランドを生かしたPR</li> </ul>

## 地元就職を進めるための主な課題の整理と考察

これまでの2回の委員会で、それぞれの立場での課題等を共有し、それぞれの弱点や強みなども見えてきた。それぞれが一定の役割を果たす一方で、抱える課題もある。

- ・企業では独自に自由な取り組みができるが、予算面や費用対効果を考えると積極的な動きができない
  - ・学校や保護者には地元就職につながる影響力があるものの、地元就職が全てではないというジレンマがある。
  - ・地元就職への取り組みを総合的に推進できるが、連携が十分にできないと効果が見えにくい。
- など、これらを共有した上で、それぞれの強みを生かすような取り組みを検討していく必要がある。

### 企業

【課題】 求人を出しても来ない、個々での限界

- ・都会や大企業への志向
- ・個人企業の求人も厳しい
- ・企業のコアな技術が知られていない
- ・都市部には無い車通勤の必要性

【強み】

- ・個々では限界があるが、相互に協力できる
- ・商工会等のネットワーク

### 学校・保護者

【課題】 地元就職が全てではない

- ・生徒数の減少
- ・地元企業だけの進路指導はできない

【強み】

- ・キャリア教育、ふるさと教育
- ・直接関わることができる（影響力）

### 行政

【課題】 情報発信や市民の関心

- ・地元高校への進学率が低い
- ・大学等への進学後の追跡が困難

【強み】

- ・全体を把握できる
- ・「日本遺産」「食と農の都」まちの魅力

逆転の発想により見えてくるものはないか  
連携を深めることで課題を克服できないか

地元就職促進のための流れ（案）

【①】種をまくこと～ふるさと教育を全員が認識

篠山市で取り組むふるさと教育への積極的な関わりを進めるとともに、地元就職への動機づけとなる制度の導入や見直しなどを検討する。

1. ふるさと教育が生きてくる仕掛けづくり
2. 篠山ならではの仕事、働き方の提案
3. シミュレーション冊子の作成・配布

【②】きっかけづくり～より具体的な情報提供、キャリアの積み方や実例

高校卒業後の就職者にとっては、保護者や進路指導教諭との関わりが大きい。定期的な情報交換や情報共有を進め、必要な取り組みを考えていく必要がある。大学等への進学者へは、積極的な情報発信が大きなポイントであり、しごとサイトの充実や都市部でのイベント、地元開催の同窓会などに効果があると考えられる。

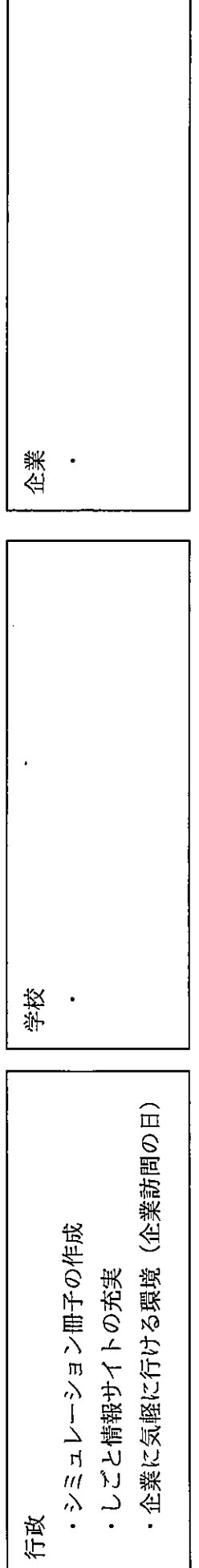
1. 市内高校との連携（連携・情報交換の場、先輩が後輩に伝える機会）
2. しごとサイトの充実
3. 学生インターンシップの充実
4. イベントの開催

【③】体験できる場～身近に感じる企業、敷居を低く、企業に行きやすい環境、企業との関わり

多くの企業は自社のPRに加え、地元高校生等との関わりを増やすことをセットで考えている。企業と学校が連携した取り組みが広がることで、より企業深く地元企業を知り、興味を持ってもらうことができる。また、大学生については、インターンシップが大きな就職の契機となることから、各企業での取り組みが活発化するとともに、周知にも力を入れる必要がある。

1. 企業からの出前授業
2. 企業に気軽に行ける環境づくり（企業訪問の日）
3. 動画を活用した企業紹介

イメージ図作成：種をまく→きっかけづくり→体験できる場⇒地元就職の促進



## ■保護者対象企業見学会

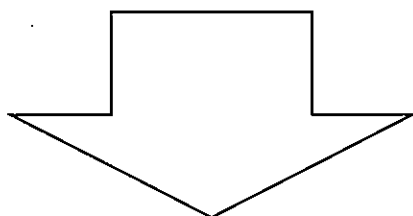
就職を考える高校生にとって、影響力のある保護者の方を対象に、市内企業の魅力を周知することを目的に、今年度新規事業として開催。

- ・開催日時 平成30年11月28日(水) 9:00~16:20
- ・対象者 高校2年生の保護者(市内事業所にご興味ある方が参加可能)
- ・コース ①団体訪問コース AM 3社、PM 3社  
(芦森工業、岩崎電気製作所、共栄樹脂、兵庫精密工業所、フルヤ工業、名南精密製作所)  
②個別訪問コース 市内企業 13社
- ・参加事業所 市内企業 17社(製造業 3社、医療福祉 1社、その他サービス 3社)
- ・周知方法 市内高等学校3校の全校生徒にチラシ配布、記者発表、市ホームページ、広報誌掲載。  
市役所・各支所、市民センター、篠山口駅でチラシ常設。
- ・参加保護者 合計7人
  - ① 団体訪問コース AMのみ参加 1人、1日参加 4人 計5人  
(市バスを公用車に変更して見学。)
  - ② 個別訪問コース 2人(黄桜、フジフレッシュフーズ)
- ・参加保護者意見(アンケート実施)

篠山にはあまり仕事をする場がないという考えが変わった。  
進路については、子供が決めることなのであまり考えていなかったが、子供に市内企業の事を教えてあげたいと思った。
- ・参加企業意見(アンケート実施)

本イベントの感想・・・必要な施策だと感じる。  
内外で見る印象の違いがあるので、いい機会だと思う。  
(就職フェア・説明会→見学・体験)

改善点・・・・・・・・・・開催日を再検討(就職に興味のある時期・開催日を増やす)  
目的意識があるプランニング(食品会社などのみのツアー等)  
チラシの配布時期を再検討(参加事業所の職員に配布・3者面談時)



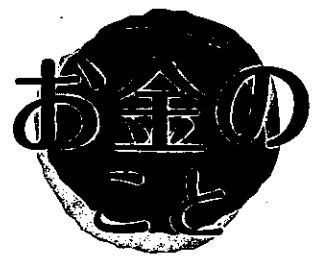
## ■ (案) 企業見学の日

～幸せ仕事さがしの日～

- ・開催日時 平成 30 年 11 月中旬 (平日×1 日・土日祝日×1 日) の 2 日間
- ・対象者 保護者・(高校生・学生 (短大・大学等) の希望者)  
(市内事業所にご興味ある方が参加可能)
- ・コース 個別訪問コース
- ・周知方法 市内高等学校 3 校の全校生徒にチラシ配布 (高 2 は、3 者面談時に配布?) 記者発表、市ホームページ、広報誌掲載。  
市役所・各支所、市民センター、篠山口駅でチラシ常設。

### ※協議内容

- ・より多くの人に参加してもらうために・・・  
特典を付けて、「地元企業を知るきっかけづくり」にすることについて  
例：市内企業のお菓子引き換え券を交付 (篠山の和菓子 1 つ) など  
参加事業所全社自己負担  
(短大・大学のオープンキャンパスは、昼食サービス、ドリンクサービスの事例有)
- ・対象者に高校生・学生を追加について  
高校 2 年生に対して、高校を通じて 3 月に企業見学会を開催しているが、希望者であれば参加可能とすることについて



## 宍粟で程よく豊かな暮らし

### 地域別生活コスト比較表 — 宍粟での実家暮らしと都会での一人暮らし —

家族や自然が身近な宍粟市では、大都市と比べて少ないコストで生活ができます。  
そんな宍粟での暮らしを、統計資料を元にシミュレーション！

想定  
条件

**月収** 宍粟市：267,318円  
東京など：323,060円

**住居と家族構成** 宍粟市：実家で家族と同居（23-30才）  
東京など：賃貸住宅で一人暮らし（全年代）

収入は少ななくても、  
手元にしっかり  
お金が残る！

	宍粟市	東京など
<b>収入</b>	¥267,318	¥323,060
<b>支出</b>	¥182,262	¥255,572
<b>差引き</b>	¥85,056	¥67,488

#### 支出内訳

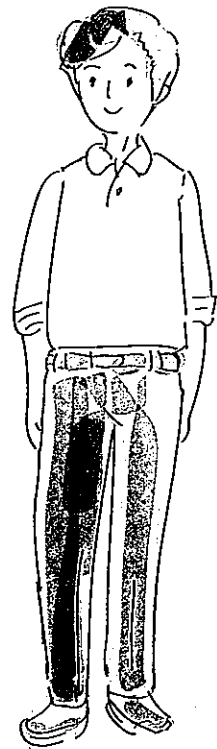
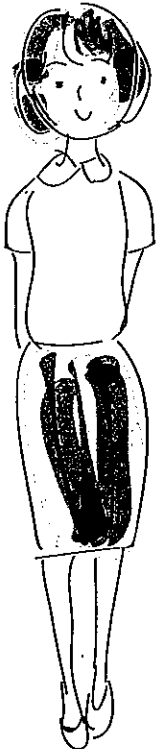
##### 消費支出

食費	¥0	¥48,786
住居費	¥0	¥48,277
光熱・水費	¥0	¥6,652
家具・家事用品	¥3,843	¥3,437
被服及び履物	¥6,916	¥8,096
保健医療	¥6,446	¥6,547
交通・通信	¥24,558	¥22,481
教養娯楽	¥18,770	¥18,604
実家に繰入	¥30,000	¥0
その他の消費支出	¥36,805	¥31,780
<b>計</b>	<b>¥127,338</b>	<b>¥194,660</b>

実家暮らしで  
食費・住居費・光熱水費は  
0円！

##### 非消費支出

直接税	¥18,309	¥23,114
社会保険料	¥36,615	¥37,798
<b>計</b>	<b>¥54,924</b>	<b>¥60,912</b>



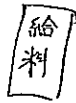
【出展】総務省家計調査(H29)、住宅・土地統計調査(H25)、宍粟市課税資料(H30)に基づき構成。

# 結局手元に残る「お金」は宍粟の方が多いいことも!?

～シミュレーションで比較してみたら～

## 30歳から65歳まで 5年毎の収支と貯金残高 シミュレーション

収入



宍粟市  
18,658万円

東京都  
22,469万円

東京都の方が  
3,811万円多い

貯金高



宍粟市  
2,300万円

東京都  
2,174万円

宍粟市の方が...  
126万円多い

世帯主の給与貰との比較

住居費



宍粟市  
2,896万円

東京都  
5,888万円

東京都の方が  
2,992万円多い

出展「平成26年消費実態調査—世帯主の年齢階級別1世帯当たり1か月間の収入と支出(うち勤労者世帯)」総務省統計局  
「小売物価統計調査—住居、光熱・水道、家具・家事用品(2017年)」総務省統計局  
「平成25年住宅・土地統計調査」総務省統計局、「毎月勤労統計調査 全国調査(2017年・年末給与・夏季給与)」厚生労働省  
に基づき構成

